

身構えずにまずは挨拶から

「コミュニケーションが多文化共生の第一歩

外国人市民が増加 誰もが住みやすいまちへ

守山市における国際交流の歴史を振り返ると、昭和50年の米国ハワイ州カウアイ郡との姉妹提携を契機に海外都市との姉妹都市交流が始まり、米国ミシガン州エイドリアン市、韓国忠清南道公州市とも提携を結び、文化交流や教育交流を図ってきました。3つの姉妹都市との交流が活性化するとともに、約半世紀の間に進んだ社会変化に合わせ、本市でも多くの外国人が居住されるようになりました。

安心できる暮らしのために 行政と市国際交流協会が協力

外国人市民が安心して暮らすための取り組みとして、防災、福祉、子どもの教育といった生活に関する相談などの生活支援や情報提供、地域住民との円滑なコミュニケーションを図る交流事業などを、市国際交流協会と協力・連携して進めています。

市民一人ひとりが 外国人市民の支援者に

守山市では大都市や県内他市に比べ外国人市民の占める割合は高くないものの昨年度には1,000人を超えました。また、平成30年12月の入管法および法務省設置法改正など日本全体で外国人労働者の受け入れを進める中、守山で生活し働く外国人は、今後も増加していくと予想されています。

外国人市民が安心して暮らすための取り組みとして、防災、福祉、子どもの教育といった生活に関する相談などの生活支援や情報提供、地域住民との円滑なコミュニケーションを図る交流事業などを、市国際交流協会と協力・連携して進めています。

誰もが暮らしやすいまちを作るために、行政だけではなく、市民の皆さん一人ひとりにも外国人市民の支援者になっていただければと思います。支援者といっても、難しく考えず、気軽にコミュニケーションをとり、繋がりを作っていただくことが大切だと考えています。



市民協働課 池田 美佑さん(左)、市民協働課 内藤 晴輝さん

東京2020パラを交流の弾みに 外国人にも住みやすいまちづくり

市民交流や生活支援が守山市国際交流協会の活動

東京2020オリンピック・パラリンピックで、守山市はトルコのホストタウンに登録されました。トルコ選手が来市して、合宿や市民との交流が予定されています。市は市民にトルコの

風土や文化に親しむ機会を作るなどして、おもてなしの準備を進めています。

守山市には技能実習生や留学生もいますが、生活基盤をもっと長く生活している人も多くいます。入管法の改正などにより、今後も守山市で働く外国人市民は増えると推定されます。



守山市国際交流協会
松村 美沙枝さん

このような社会背景から、外国人市民にとっても住みやすいまちづくりが求められるようになっていきます。

日本語教室では出身国や滞在歴もさまざまな外国人が、一生懸命に日本語を学んで、出身国の異なる人同士で「日本語」を使ってコミュニケーションをとっています。「やさしい日本語」は外国人と日本人が仲良くなるためにも使えるものです。

交流は言語や文化の違いを埋めるチカラ

協会が主催するMINNAのサロンや国際交流の広場は、日本人市民と外国人市民が、言語や文化の違いを認め合って交流

しています。MINNAのサロンでは外国人市民が自国の自慢料理をふるまうこともあれば、行政の職員を講師に、「ごみの分別を学んでもらう」こともありま



守山日本語教室

す。国際交流の広場では、たくさんのお客様の前で日本の歌を披露したり、和装や日本の伝統文化を体験してもらっています。外国人市民が自国の文化を紹介することもあります。



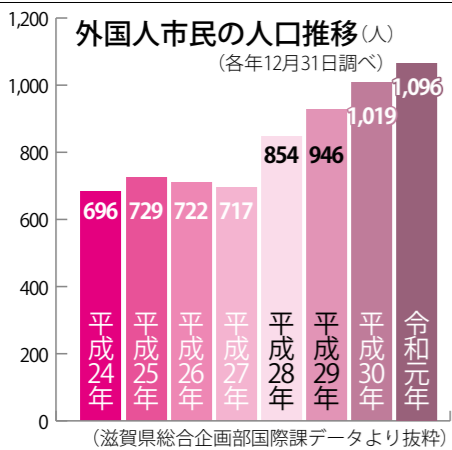
MINNAのサロンでごみの分別を学ぶ

外国人市民は、母国を離れて守山市に暮らしながら、一生懸命に日本語を学び、生活ルールを覚えようと努力しようとしています。



MINNAのサロンでごみの分別を学ぶ

「外国人だから」と考えるのではなく、まずは話をして仲良くなって、日本の生活文化やルールを伝えたり、一緒に考えたりできる地域社会に向けて、協会として取り組みを進めます。



母国語別外国人市民(人)

インドネシア語	130	英語	105
スペイン語	65	台湾語	12
ネパール語	28	中国語	357
韓国語	212	その他	22
ベトナム語	152	総数	1,150
ポルトガル語	67		

- ### やさしい日本語を使うときの注意点
- ・訓読みの言葉やひらがなを使う
 - ・丁寧すぎる敬語を使わない
 - ・擬音語や和暦を使わない
 - ・あいまいな表現は避ける
- ### やさしい日本語の具体例
- ・危険→あぶない
 - ・提出してください→出してください
 - ・配偶者→妻や夫

デイビッドさんのご家族
 デイビッド・デピューリーさん
 かずみ 和美・デピューリーさん
 のぶ 雪乃・デピューリーさん
 けん 輝・デピューリーさん
 きつ 冨月・デピューリーさん



家族が集まるこのまちと家が故郷 日本語で地域「コミュニケーション」

「外国人だからできない」の前の会話が大切

生まれも育ちも英国だけど
家族が集まる守山が故郷

私の母国はイギリスで、平成7年に来日しました。舞台芸術を学んだ学生時代の友達の家を泊まり歩いて英会話教室の講師になり、大津市にあったバレエ教室で踊っていた時に、ピアノを弾いていた奥さんと出会って結婚し、3人の子どもを授かりました。13年前に伊勢町に家を建てて守山市民になりました。私は自宅で英会話教室を、奥さんはピアノ教室を営んでいます。大学生と高校生の子どもは成長して親元を離れています。子どもたちにとってはこの家が実家です。私にとっても家族が集まってくるこのまち、この家が故郷です。

家族同士でも丁寧な日本語
先生役の和美さんに感謝

私の日本語の先生は奥さんで

「話しかけてもらえない」など地域に受け入れてもらえないと感じる外国人の声も聞こえてきます。

「近所や地域に外国人が住んでいるな、と思つたら「もし、自分がたつた一人でも外国に行つたら…」と想像してみてください。

外国人と話をしたことがないという人は「おはよう」「こんばんは」と挨拶の言葉から始めてみましょう。最初はぎこちなくても、きつと仲良くなつていけると思います。「地域のために何かしたい」と考えている外国人は多いですから。

地球市民という考え方を目指す それがグローバルということ

「自分がたつた一人でも外国に行つたら…」と想像して動く

私たち県国際協会は、日々の仕事の中でよく「グローバル」という言葉を使います。それは、国際社会の一員としてグローバルに考え、自分にできるローカルな活動をしていこうというものです。

地域のみならず国際交流
まずは挨拶からはじめよう

滋賀県は外国人から「皆さん親切です。空気もきれいで住みやすい」と言ってもらえます。その一方で「自治会に入れない



公益財団法人滋賀県交流協会
副主幹 光田 展子さん

公益財団法人滋賀県交流協会
防災担当 會田 真由美さん

共通言語は「やさしい日本語」
国際交流で地域力も向上する

私たちが県国際協会の職員になっておよそ20年になります。当初は国際交流が中心で、英語での交流や外国語が堪能な人、海外経験のある人など関心のあつた限られた人たちのものという雰囲気でした。

阪神淡路大震災をきっかけに、外国人の人への情報提供や共生のあり方について、議論が活発になりました。

その中で生まれたのが、「日本にいるさまざまな国籍の人々のための共通言語」として、「やさしい日本語を使う」という発想でした。「災害時の「共助」の概念では日ごろの交流や絆づくりなど地域力強化が重要です。ただ、それまでは何をすることも多かつたのですが、「やさしい日本語を共通言語として使用すれば、外国人の住民と日ごろから交流を深めていけるのでは」という考え方につながり、注目されるようになりました。

地震や台風などの自然災害が発生した被災地では、外国人の住民が地域の高齢者を助けて避

難する姿も見られたと聞きます。地域の絆は、外国人だけでなく日本人にとつてもかけがえのないものです。

グローバルに考え地域で行動
私たちが目指す「グローバル」

人口減少や人手不足など将来への懸念の中、平成31年4月に改正入管法が施行され、県内に住む外国人は今後ますます増え多様化すると思われれます。

的に対応されます。そのため必要とする人すべてに対応はできないといった弱点があります。だからこそ、外国人の住民にとつては地域の人たちとのつながりが大切になります。

日本で働き、生活する外国人の人と地域の人として「ともに暮らし絆を深めていくことが今後ますます大切となります。最近は一財「自治体国際化協会」が15言語で提供している多言語生活情報をはじめ、当協会の

ホームページなどでもさまざまな役立つ多言語ツールやアプリがあるので、上手に活用して自分ができるローカルな交流へ一歩踏み出してください。

す。日本に住んで日本人と仲良くなるには日本語を使いたいと思っていました。

■ 親しい間柄ならともかく、目上の方と話すときに夫の意図しない所で誤解を招く言葉を使つてしまうことが心配だったので、結婚当初は「ですます調」で話すなどを心掛けていました。 (和美さん)

■ 両親が交わす会話を聞いていたので、面接などの時に必要以上の緊張をしないで臨めた気がします。小中学生のころなどは「周りや友達と違う」とあることを気にしていました。 (雪乃さん)

■ 私はお姉ちゃんお兄ちゃんに続いて生まれてきたので、それほど身の回りで困ったことなどはありません。クリスマスに七面鳥を焼いてくれるお父さんを見るたびに、イギリス人のお父さんで良かったなと思います。 (冨月さん)

違いは「コミュニケーション」と努力で乗り越え

ヨーロッパは陸続きでさまざまなルーツの人が一緒に暮らしています。私はそれが普通のこととして育つてきました。外国に旅行に行くことも普通で、日本に帰ることも「郷に入らば郷に従おう」という感覚も、そうした生活で培われました。

私が地域に溶け込めた理由は、私も地域の方々も、「外国人だからできない」と言わなかったからでしょう。お祭りに誘っていただいた時も、自治会役員が回ってきた時も「分からない」とが多けれど頑張ります。できない時には助けてください」と答えました。皆さんにいつも助けていただいていると思つたので、自治会館で未就学児と英語で触れ合うお話を聞いた時は日ごろのお返しができるチャンスを感じました。嬉しい気持ちになりました。

外国人と日本人であっても、家族であってもコミュニケーションの不足はトラブルのもと。「外国人だから」と考える前に少しだけやさしい日本語で話をしてみてください。



2つの国の絆を未来へ
藤田ウステュネル・ギョネンさん
(トルコ・守山市勤務)

私は言語学の研究をしていたので言葉やコミュニケーションの大切さはよく分かります。私が日本語で話しかけても、私の顔を見て、英語で返答される時もあります。しかし、「外国人は日本語ができない、英語ができる」と思わずに、相手に応じて英語や簡単な日本語などを使い分けて話せばコミュニケーションの幅が広がると思いますので、ぜひ実践してみてください。

優秀な人材集まる企業に
ダイハツディーゼル株式会社
(日本 外国人技能実習生受入企業)



守山市は東京2020オリンピックピック・パラリンピックでグローバルと視覚障害者柔道の種目でトルコのホストタウンに登録しています。これをきっかけに、両国の交流がいつまでも続くような絆を作っていきたいと思っています。

守山で輝く 外国籍の市民に 話を聴きました



母国の味を食べてほしい
チャリセ・ネジ・バハドゥルさん
(ネパール・飲食店経営)

平成7年に静岡県から守山市に引越してきました。平成22年に自分のお店を買って、カレーなど母国の料理を提供する飲食店のオーナーシェフをしています。10人兄弟のうち5人が日本に住み、みんな家庭を持っています。都会ではないけれど、家族と一緒に住んでいる守山市が大好きだと感じています。



熱心に日本語を学ぶ姿知って
吉川矩次さん
(日本 守山日本語教室主宰)

私は定年後の学習の一つとして中国語を学んでいました。約20年前に近所に住む台湾出身の人から相談を受けて、日本語を教え始めたのがスタートでした。

当時は守山市で暮らして住む中国人が増えてきたことで、日本語教室の必要性を感じて開講しました。

守山で働く外国人の動向も時代とともに変化し、近年はベトナムやインドネシアなど東南アジアの人が増えています。それに伴って日本語習得の目的も多様化してきました。

守山で働く外国人の多くは、市内で生活している人です。企業だけでなく市民も外国人とのコミュニケーションは大切です。一生懸命に日本語を覚えていく彼らと「日本語で話したり笑い合ったりできる関係になって欲しい」と考えています。



日本人の友達に欲しい
白雲さん
(中国・市内工場勤務)

私は企業で働きながら日本語教室で日本語を学んでいます。日本は民度が高く、守山の人は親切で言葉があまり分からない私のために、ゆっくりゆっくり話してくれました。母国の大連は大都市ですが「歩行者より車の方が偉い」「ごみは何でも一緒にする」など、マナーや文化の違いがあります。

何年か過ごすうちに日本の生活にも慣れました。ホームシックになることもありますが、とても気持ちよく生活しています。職場の日本人ともだんだん明るく話したり笑ったりできるようになりました。

若くてハンサムな人なら一番うれしいですが、日本人の友達が欲しいと思っています。



違いも会話のきっかけに
トマ・ラノーさん
(ベルギー・留学生)

ホストファミリーの家に滞在して立命館守山高専学校で勉強とバスケットを楽しんでいます。私は外国の顔立ちだけでなく身長が196cmと高いのでよく目立ちます。買い物では制服でいると日本語で、私服でいると英語で話しかけてくれます。

授業の後も学校に残って部活動をしたり、犬を飼うには毎日散歩が必要だったり驚くことも多いですが、みんな優しく仲良くなれました。

言葉も文化も違うから、お互いに怖いと思うとケンカになってしまうかもしれないけれど、否定せずに「なんで？」と驚いたり聞いたりして、「コミュニケーションをとって、たくさん友達ができます。



日本の友達に助けられた
村山アナ・イザベルさん
(エルサルバドル・スペイン語通訳)

4年前に国際結婚で守山市にきました。家族や周りの人に教えてもらいながら、子育てや地域のことなど精いっぱいやってきました。

私は主人や家族がいたのであまり不自由を感じませんでした。が働いて生活するということでは守山市民になるということでは、外国籍であっても、役所の手続きや子どもの保育園などいろいろなお困りごとを乗り越えてきました。通訳の仕事を通して、外国人の事情や困りごとを見聞きすることも多いです。

私の困りごとを助けてくれたのは日本人の友達でした。今でも感謝しています。ほかの外国人もきっと日本の友達を必要としていると思います。



児童の成長を見守り4年
ニカルド・マクリンさん
(ジャマイカ・ALT英語教師)

市内の小学校で英語を教える先生です。ALTにはいろいろな国の人がいて、それぞれ違う文化を持っています。母国のジャマイカと日本は言葉も文化も子どもの様子もまるで違っているので、驚いたり戸惑ったりしながら4年が経ちました。

赴任した当時2年生に「How are you」と話かけても同じ言葉が返ってくるだけでしたが、6年生になると会話をしてくれ、日々、子どもの成長を感じて嬉しくなります。日本の子どもは我慢強くシャイですが、お父さんのような気持ちで先生をしています。いろいろな人とコミュニケーションをとる経験を積み、大きく成長して欲しいと思っています。